

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.242

2025.12.2

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

「税金は暮らしの拡充に 戦争準備の軍拡は中止して、憲法、平和、いのち、 くらしを守る政治への転換を求める請願署名（略称＝大軍拡反対請願署名）」 に、ご協力ください！

◇署名用紙が不足の場合は、岩手県生協連までご連絡ください。

平和こそ宝・憲法九条をまもり生かすために—「中津川九条をまもる」会20周年集会開催報告—

10月31日に29名の参加で開催しました。

はじめに、岩手県被団協の下村次弘さんをお招きして、昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことを記念して、お話を聞きしました。下村さんの父親は8/7～9日の間、広島へ被災処理に従事した事で放射能の影響を受けて被爆。下村さんが36歳の時に初めてこの話を聞いたそうです。公にしてこなかった父親の心情について話し、被爆者手帳が交付されたのは父親が12/7に亡くなった後の12/11だったそうです。政府が被爆者に「受忍」を強いてきた結果だと批判しました。その後退職後被団協の運動に被爆者遺族として参加。現在86才。とても若々しく感じました。



下村さんは、日本被団協のノーベル平和賞受賞式に際し、これに同行するツアーに被爆者遺族として娘さんと共に参加。オスロでの感動的だった受賞のことや、個人的に孫9条の会（実際お孫さんは9名）を発足していく、「あたらしい憲法のはなし」の冊子をお孫さんが中学に入学した時に読んで欲しいと渡していることなどを語り、「核兵器も戦争もない世界」の現実にむけて一緒に運動をしましょうと呼びかけました。

また、この日は「中津川九条をまもる」会のメンバーが20年前に地域の方からお聞きした戦争体験談を1冊にして参加者に渡し、その中から3つを朗読しました。特に事務局メンバーの中村さんが、ご自身の体験を声を震わせながら話してくれたことが印象的でした。

今回20周年を迎えたことで1年目からの活動を見直しました。これまで平和映画の上映、戦争中の食事を体験など講演会以外のことも行ってきました。今なお戦争が続き、核兵器の恐怖に脅かされ平和な世界と逆行している。私たちの力は微量ですがこれからも九条をまもり続けたいと思います。（会長・本多多津子）

戦後80年～これからも平和であり続けるために～岩手県消費者大会で清末愛沙さん講演～

10月29日、岩手県消費者大会を開催し、265人参加（うちWEB15人）が参加しました。

全体会では、室蘭工業大学大学院教授の清末愛沙さんが講演。清末教授は、戦後80年という節目の年にあたり、平和の重要性と消費者としての視点から平和な社会を維持するために何ができるかについて、憲法9条や24条などの解説や憲法がくらしに身近につながっていることを説明しました。



参加者からは、「憲法について勉強になった。前文をもう一度読んでみたい」

「平和といえば9条と思っていたが、24条から平和につながるという内容や視点が新鮮ですばらしい。憲法について深く学ぶことができた」など、日々の生活と憲法、平和問題が密接に関わっていることを再認識し、深く考える機会となりました。

午後の分科会では、環境、社会保障、食、平和・人権、消費者問題の5つのテーマに分かれ、参加者がそれぞれの立場から意見や日頃の活動事例を発表し、交流しながら理解を深めました。

◇見逃し配信↓

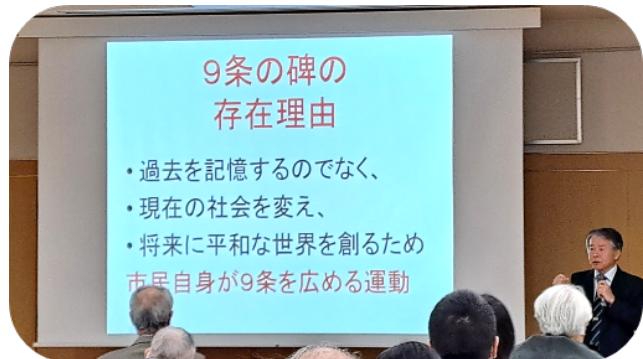
<https://youtu.be/EGVLOYyNF-M?list=PLosOQXdbks8lNVwvZqLTc5AB5bczGEnSf>



憲法と平和の危機。いま私たちに何が必要か—伊藤千尋さん講演会開催報告—

11月8日、市民アクション岩手の会主催で被爆・戦後80年平和を考える学習会を開催し、76人参加（うちWEB12人）しました。ジャーナリストの伊藤千尋さんが「今、なぜ9条の碑を建てるのか～基地の中にも被爆の丘にも～」と題して講演しました。

伊藤さんは、日本各地や世界にある9条の碑の写真をみせながら、建てられた経緯やその思いを紹介。憲法9条の重要性、素晴らしさを説明しながら、「9条の碑は過去を記憶するのではなく、現在の社会や将来の平和のために存在している。全国で今建立ラッシュとなって70基以上建てられているが、もっと9条の碑を広めよう」と訴えました。



参加者からは、「9条の碑は過去を記憶するのではなく、現在の社会や将来の平和のために存在しているのだとわかった」「コスタリカでは幼稚園から平和教育をしているが、どうしたら平和を作れるかを重視している。日本は戦争の悲惨さを伝えるだけ」「憲法9条の重要性、素晴らしさを改めて知り、誇りに感じる」「平和になるために軍事力を持たない理由・意義がよくわかった。各地にある9条の碑がつくられた経緯や思いを聞き納得」「幼少期に戦争を経験し、戦争は絶対ダメと心底から思っている。軍事力を減らしたら、教育費や社会保障の増額などいろいろ使えるのに」などの感想が出されました。

◇見逃し配信 ⇒ <https://youtube.com/live/ovpWoApNOhQ>



コラム=— 高市首相！日本国憲法下の『内閣総理大臣』たれ！—

コラム子は、去る10月7日、高市首相の（この）国会答弁以来、歴代首相の国会答弁と趣旨が違うことを、機会あるごとに発言してきました。報道はどうであったかを見てみよう。

報道1 「緊張拡大 終息見えず」高市首相の台湾有事を巡る「国会答弁」【‘25・11・19 岩手日報】

台湾を巡る日中両国の主張（「1972年9月日中共同声明」一国交正常化）①中国側主張—台湾は中国の不可分の領土②日本側主張—中国の立場を十分理解し、尊重…

報道2 「歴代政権の姿勢と矛盾 首相「台湾有事」答弁 山添氏指摘【‘25・11・21 しんぶん赤旗】

日本共産党の山添拓議員は20日の参院外交防衛委員会で、台湾有事は「存立危機事態になりうる」との高市首相の答弁が国際問題になっていることについて、歴代政権の姿勢とも矛盾するとただし、答弁の撤回を求めました。

山添氏は、日本が攻撃を受けていないのに米軍とともに軍事介入し中国との戦争に自衛隊が参戦する可能性を認めた重大答弁であり、憲法違反の集団的自衛権行使を容認した安保法制の危険が明らかになったと指摘。安保法制を強行した安倍晋三元首相でさえ「台湾有事は日本有事」と述べたのは首相退任後だったと強調しました。…

県民運動、国民運動で「声」を上げましょう！コラム子が参加したある集会で事務局長が参加者に、「思っているだけでは声をあげたことにはなりません。皆さん、口を開いて声をあげましょう！」と呼びかけていたのには、とても感動！「高市首相！日本国憲法下の『内閣総理大臣』たれ！」（T）

「12月の岩手の会街宣行動」9日(火)12:30～13:00盛岡市大通・野村証券前

ご都合のつく方は、ぜひご参加ください！

